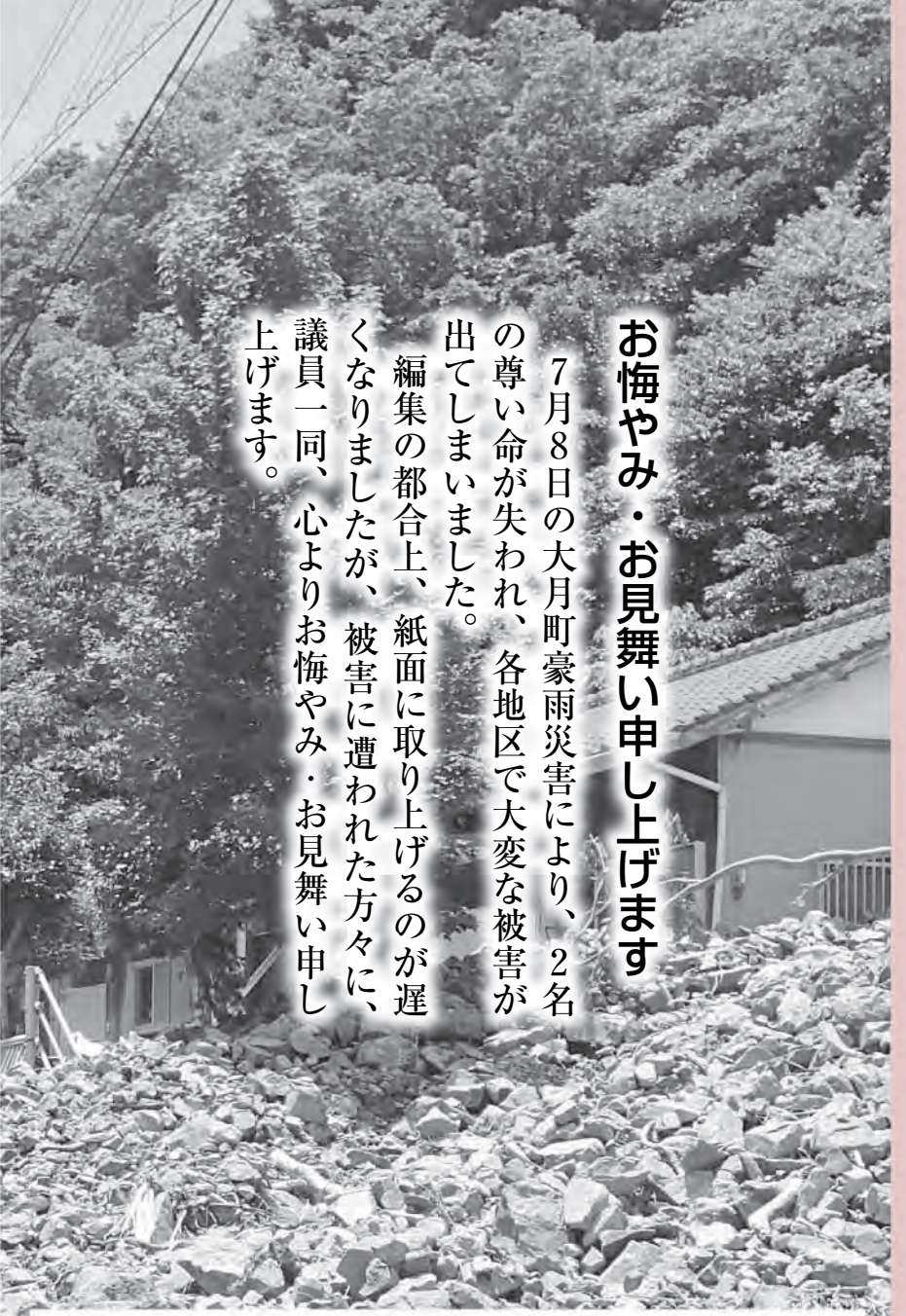
大月町 議会だより

94号

9月定例会

平成30年11月1日発行　高知県大月町議会



お悔やみ・お見舞い申し上げます

7月8日の大月町豪雨災害により、2名の尊い命が失われ、各地区で大変な被害が出てしまいました。

編集の都合上、紙面に取り上げるのが遅くなりましたが、被害に遭われた方々に、議員一同、心よりお悔やみ・お見舞い申し上げます。

集められたゴミでいっぱいになったクリーンセンター
被害の大きさを物語る

9月定例会

平成30年９月定例会は13日から21日までの会期で開き、専決案件６件、条例４件、補正予算７件、平成29年度各会計の決算認定10件、人事案件２件、意見書１件、請願書１件、陳情１件、その他１件の計33議案を審議し、原案のとおり可決しました。

一般質問は６人が登壇し、執行部をただしました。

もくじ

P 2　大月町豪雨災害
P 4　組織改選
P 6　９月補正
P 7　条例等
P 8　決算審査
P10　決算質疑
P14　総合整備計画
P15　委員会活動
P16　一般質問
P23　みんなの広場
P24　こんにちは

表紙写真によせて

最近は学校の運動会で見かけなくなった「パン食い競争」。子どもも大人も大はしゃぎ。熱気と笑顔にあふれた１日となりました。

復興を願って「橘浦親睦運動会」

大月町豪雨災害

被害総額約35億円

全壊7棟、半壊19棟、床上浸水51棟、床下浸水108棟、道路、河川、農業被害、漁業被害などが起こり、大月町全体の被害総額は35億円に及びます。
議会も災害復旧に向け努力いたします。
【写真は橘浦地区】

執行部より豪雨被害の実態の説明を受ける

を尽くします

9月議会で正副議長、常任委員が改選されました。任期は2年です。

議長　谷　正美

私、このたび9月定例会におきまして議長に就任いたしました。

町民の皆様の負託に応えられるよう、地域の活性化や人口減少対策、災害対策等、多くの課題に、誠心誠意、取り組む所存でございます。また、議会を身近に感じていただけるよう工夫してまいりますので、引き続き町民の皆様のご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

総務厚生常任委員会

委員長　高野真司
副委員長　山本恒和
委　員　浦木秀雄
　　安岡邦彦
　　久米里志

総務厚生常任委員会は、一般行政、予算、決算、その他の財務、教育、福利厚生、保健衛生、その他産業建設常任委員会に属さない事項を受け持ちます。

議会運営委員会

委員長　中平順三
副委員長　安岡邦彦
委　員　浦木秀雄
　　高野真司
　　小松重富

議会運営委員会は、議会運営が円滑に行われるよう議事の順序や進め方などを協議します。

町民のために力

副議長　浦木秀雄

副議長としての職責を自覚し、議会改革を進め、各家庭に議会放送ができるなど住民に開かれた議会をめざします。また、働く場づくりなど大月町の課題を一つずつ克服し、住民の暮らしが少しでも豊かになるように努力いたします。どうかよろしくお願いします。

産業建設常任委員会

委員長　小松重富
副委員長　野村満久
委　員　中平順三
　　谷　正美
　　安原明彦

産業建設常任委員会は、農業、商業、観光、土木事業（漁港、港湾、道路、河川、橋梁）、水道事業、建築に関することを受け持ちます。

議会広報常任委員会

委員長　山本恒和
副委員長　安原明彦
委　員　浦木秀雄
　　野村満久
　　久米里志

議会広報常任委員会は、議会広報誌の編集発行、議会の広報および広聴に関することを受け持ちます。

9月補正

災害復旧に全力

一般会計補正予算の主な使い道

現年災害復旧工事、災害復旧費8億6835万円

がけくずれ住家防災対策事業7500万円

災害廃棄物処理委託料3850万円

問 がけくずれ住家防災対策事業7500万円はすぐに取りかかるのか。

答 国の査定を受けた後に執行となります。

問 災害援護資金貸付金7500万円は。

答 家屋の損害がありかつ住居の損害がない場合に150万円。住居が半壊した場合に170万円。住居が全壊した場合に250万円。住居の全体が滅失もしくは流出した場合に350万円を、生活再建のために貸し付けるものです。

問 自然体験型観光事業宿泊施設整備工事347万円は。

答 エコロジーキャンプ場の遊歩道の改修工事費です。

問 自然体験型観光事業備品購入費595万円の説明を。

答 マグロのモニュメント、クリアカヌー、サップの整備費です。

問 自然体験型観光事業修繕費130万円は。

答 小才角・馬路・お猿公園・ふれあいパーク大月の観光案内板4カ所を新しいものにします。

問 柏島橋周辺監視委託料44万8000円は。

答 夏場、土日、盆時期に駐車禁止区域を竜ヶ浜の観音岩の停留所まで延長して取り組んだものです。

平成30年9月補正予算

（全員賛成）

会計名		補正額	総額
一般会計		15億3072万円	63億8873万円
特別会計	国民健康保険	1496万円	10億961万円
	水道	1億1276万円	3億3746万円
	介護保険	2274万円	8億2273万円
	漁業集落排水処理事業	58万円	539万円
	後期高齢者医療	228万円	9537万円
病院事業		2030万円	5523万円

条例

全員賛成

◆平成30年7月豪雨災害による被害者に対する町税等の減免に関する条例

被災者の生活再建支援のため、町民税、固定資産税および国民健康保険税を軽減または免除するもの。

一部改正

◆大月町介護保険条例

保険料率の適用期間を変更するもの。

◆大月町一般職の職員の給与に関する条例

宿日直手当と、国や他の地方公共団体等から派遣された職員に対して、災害派遣手当を支給する規定の整備を行うもの。

◆大月町デイ・サービスさんご荘設置及び管理条例

高齢者のみの利用から障がい者も利用できる施設とするもの。

◆大月町国民健康保険条例

事業内容を具体化するために、療養環境の向上または保険給付のために必要な事業の項を追加するもの。

◆大月病院事業の設置等に関する条例

法的根拠を明確にするため、国民健康保険法の規定に基づき設置する旨を付け加えるもの。

大月町宿泊施設・エコロジーキャンプ場指定管理者の指定の承認

「株式会社田村商事」が分社化をし「株式会社アバン」に移行したことで、指定管理者として改めて指定し、現在の契約期間内の再契約を締結したもの。

裏山が崩落（安満地）

意見書

被災者生活再建支援法の拡充を求める意見書

（全員賛成）

被災者再建支援法に基づく支援金の最高額300万円を引き上げること。すべての被災者の住宅再建を支えるために、一部損壊も含めた国の支援策を抜本的に拡充することの2つを求めています。

内閣総理大臣、衆・参議長に提出しました。

（この意見書は議員発議による）

裏山の崩落で押しつぶされた家（橘浦）

請願

◆豪雨被害に対する抜本的な早期対応を求める請願

橘浦地区長が3名の議員の賛同を得て提出された請願は、産業建設常任委員会に付託し継続審査としました。

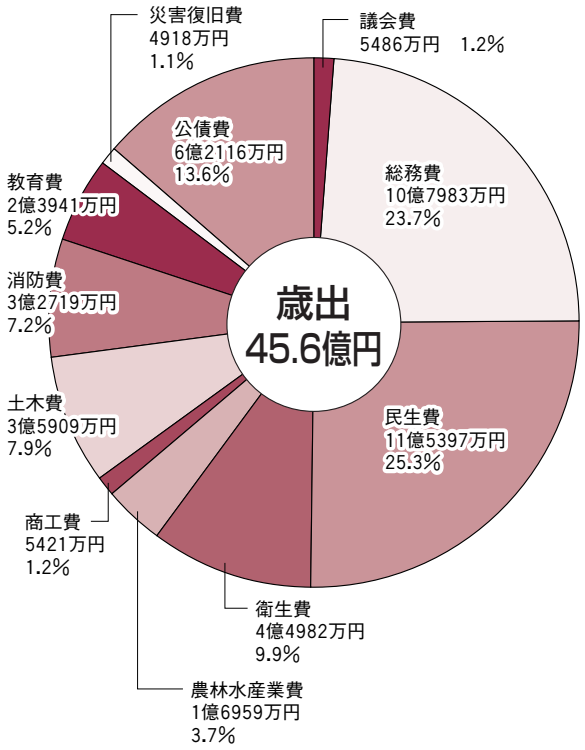
陳情

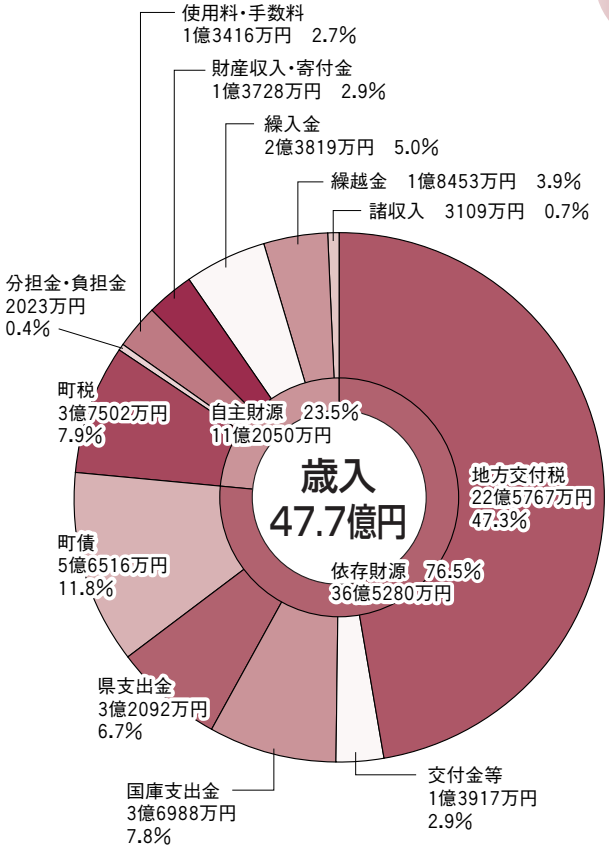
◆臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情

総務厚生常任委員会に付託し継続審査としました。

1499万円黒字

歳入歳出をグラフ化





健全化判断

（単位：%）

財政

区　分	内　容	平成28年度	平成29年度	早期健全化基準
実質赤字比率	自治体が自由に使える収入の標準額に対する、普通会計（一般会計、住宅新築資金等貸付事業）の赤字額の割合	赤字なし	赤字なし	15.00
連結実質赤字比率	自治体が自由に使える収入の標準額に対する、一般会計、特別会計全ての赤字額の合計の割合	赤字なし	赤字なし	20.00
実質公債費比率	収入に対する借金返済額の３カ年平均の割合	6.8	6.9	25.0
将来負担比率	自治体が自由に使える収入の標準額に対する、一般会計、特別会計、一部事務組合が将来負担すべき実質的な負債の割合	30.4	32.4	350.0

公営企業の経営

平成29年度の大月病院事業、水道事業、漁業集落排水処理事業ともに資金不足なし。経営健全化基準は20.0%。

平成29年度 一般会計決算 2億

歳入歳出決算認定 （全員賛成）

会計名		歳入	歳出
一般会計		47億7330万円	45億5831万円
特別会計	特別養護老人ホーム	3億2609万円	3億2609万円
	住宅新築資金等貸付事業	3081万円	3081万円
	国民健康保険	11億517万円	10億9322万円
	水道	3億3117万円	3億3068万円
	介護保険	8億1104万円	7億9153万円
	漁業集落排水処理事業	520万円	452万円
	後期高齢者医療	9450万円	9221万円
病院事業会計		5億1144万円	5億1074万円
計		79億8872万円	77億3811万円
会計間重複額		4億9993万円	4億9993万円
純合計		74億8879万円	72億3818万円

監査委員の意見（要旨）

効果的、効率的な予算執行を

総額減少

一般会計の歳入総額と歳出総額は、それぞれ前年度と比べ減少している。一般会計、特別会計の単年度収支は黒字になっている。

繰越明許費

繰越明許費は、国の平成29年度補正予算に伴う通所介護施設整備事業、防災・安全交付金事業、空き家対策総合支援事業等となっている。

歳入

歳入では、町税の収入額は増収となり、滞納繰越額は減少している。

特別会計

特別会計の歳入総額と歳出総額は、前年度と比べ国民健康保険特別会計は減少したが、その他の会計は増加している。これは主に、国民健康保険特別会計では国庫支出金の特別調整交付金などが減少し、特別養護老人ホーム特別会計では繰入金、水道特別会計では水道改良債などが増加したためである。

繰出金

一般会計から特別会計及び病院会計への繰出金は増加している。

滞納・未収金

それぞれの会計で滞納、未収金が多く発生している。徴収に向け一層の努力を望む。

より効果的、効率的な予算執行に努められたい。

町の取り組み

決算質疑

補修はどうなっているか

がけくずれ補修

久米　がけくずれ住家防災対策事業３３４万円の対象となるのは。

答　住家の裏が被災した場合です。倉庫は対象外です。要件は高さが５ｍ。長さの規定はありません。個人負担金が25％必要です。

堤防補修

浦木　町管理漁港施設機能保全事業調査委託料７５０万円の説明を。また、小才角、樫ノ浦などの堤防補修は。

答　橘浦漁港と一切漁港を修繕するための調査委託料です。

国の補助事業は、年間水揚げが1億円以上、登録漁船数が50隻以上の要件があり、小才角、樫ノ浦、西泊の漁港は国の補助要件に該当しません。

道路をふさぐ土砂、倒木

特老会計の見通しは

繰入はどうなる

中平　今後、一般会計から特老会計への繰り入れが多くなってくるのでは。また、介護職員の欠員があるのではないか。

答　基金が枯渇して、平成30年度以降一般会計に頼らざるを得ない状況です。平成29年度で起債償還が７８９９万円。これが平成34年度まで続きます。平成35年度になると５００万円くらいに下がってきますが、入所者を増やさない限り収入は増えません。

介護職員は、休んでいる人もいてギリギリでやっています。

職員確保は

谷　介護職員確保の打開策は。

答　ボーナス以外にも処遇改善手当を最高額で33万５５００円出していますが、他の施設でも同じ措置を執っているので、なかなか大月荘には来てくれません。保健介護課でヘルパー養成をしているので連携して努力していきます。

特老に導入されているお風呂

臨時から正規職員へ

安岡　臨時賃金４００円ほどだが、常時雇用している臨時職員は何名か。また、５年間連続して勤めた職員の正規職員への登用は。

答　介護職員11名、介護パート2名、看護師の臨時2名、調理師4名、調理パート3名です。

正規職員を増やせば一般会計からの繰入金も増えますが、正規職員を増やしてもらいたいと思っています。

どこまで進んだ

補助金・助成金は

老人クラブ補助金

小松　老人クラブの地区補助金100万円とあるが、全部で何地区あるのか。また、どういう基準で出しているのか。

答　平成29年度は31クラブです。

1クラブ30人以上は3万3600円、20人から29人までは1万8000円の基準で出しています。

出生祝い金など

高野　出生祝い金65万円は、何人に出したのか。また、乳幼児、児童福祉、ひとり親家庭医療費助成の説明を。

答　昨年、出生祝い金を出したのは13人です。

乳幼児医療費助成金は0歳から小学校入学までの子どもの医療費を、児童福祉医療費助成金は小・中学生の医療費を無償にしています。

ひとり親家庭医療費助成金は、18歳までの子どものいるひとり親家庭であって所得税の課税対象でない家庭の自己負担が無料になるようにするものです。

未来の大月町を担う子どもたちへ
手厚い支援を

新規就農事業・農業次世代投資事業は

従事者および補助金

小松　新規就農者、農業次世代投資事業者は何名か。研修は最長何年か。また、年間いくら出るのか。

答　新規就農者は、29年度実績が2名で、今年継続しているのが1名です。研修は最長2年です。

農業次世代投資事業は、青年就農給付金から名前が変わったもので、29年度が1名で、今継続しています。研修は最大5年間です。年間所得が250万円を超えなければ年150万円が給付されます。

給付金はどうなる

野村　250万円を超えたらどうなるのか。

答　250万円を超えたら、次の年の給付金が0になります。ただし、災害などで250万円を切るようになったら翌年度復活します。

慎重な認定を

中平　新規就農と人材育成を併せて最長7年給付が受けられる。これを悪用されないように慎重に認定を。

答　認定は精査しながらやっています。また、認定された場合、研修を受けているかどうか県の振興センターも入って一緒に確認をしています。

機械化で効率アップ

大月病院の課題克服へ

住民の命を守る大月病院

改善策

中平　大月病院は老朽化していて建て替えをするか耐震化するかどちらかだ。最先端の医療機器の導入も当然必要になる。医師の医療技術も大切。橋元先生は大腸がんの内視鏡技術が非常に良いと聞く。患者が行きたくなる病院にするために、町民にもっとPRする必要があるのではないか。

答　耐震化と雨漏り対策は早急にやらなければと思うが、1億円くらいかかると予想しています。予算が許せば、事務長としては病院を建て替えたい。

　今年度は国の補助金も採択になり、エコー、胃カメラ、検査機器など500万円の医療機器の整備をします。

　今年6月に、改善センターで橋元先生に医療公開講座をしていただき、大変好評でした。来年の3月ぐらいに、へき地医療のドクターを呼んで介護と連携の講演会ができないかと考えています。

建て替え費

浦木　もし、今の病院くらいの規模で建て替えるとしたらいくらかかるか。また、国の補助金は。

答　5億円くらいはかかるだろうと予想しています。国の補助金は3分の1くらいです。

医師の住宅

安岡　医師の住宅は、使ってないところがあるが、どのように活用するのか。

答　ドクターからの要望を受け、病院スタッフのために使います。

住宅耐震化の課題

進まない住宅耐震化

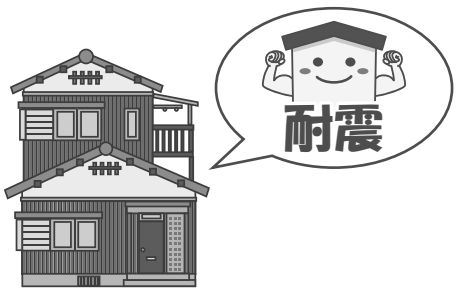
お金がかかる

谷　耐震予算も組んでいるが、なかなか使われてない。その理由として、家の古さ、高齢化、耐震化に100万円もかかるという声がある。

答　経済的な理由が一番だと思います。

　ただ、耐震改修するまで3段階ステップがあって、最初の木造住宅の耐震診断は無料でできます。耐震改修設計についても上限30万5000円までの補助があるので、持ち出しが1～2万円ぐらいで設計まではできます。最後の耐震改修は、家の規模等によって違いはありますが、実際に実施したところで110～120万円ほどで済んでおり、持ち出し20～30万円ぐらいで工事までできています。

　なかなかお年寄りだけの世帯では仕組み全体を理解してもらうのは難しいです。



学習支援員・準要保護

外国語指導助手の
アルン・チョッツさん

学習支援員は

安原　学習支援員賃金756万円の説明と、小中学校の準要保護の人数を。

答　学習支援員賃金は、ICT支援員1名、学習支援員2名、図書支援員2名の賃金です。

準要保護は、小学校34名、中学校21名です。

安原　小学生が中学校に上がってくるということは、準要保護は増えていく方向なのか。

答　小学校から中学校へ上がる部分については、毎年教育委員会の定例会にかけて審査しています。所得・収入に大きな差がなければそのまま上がっていきます。

ICTとは
インフォメーション　アンド　コミュニケーション　テクノロジーの略。情報通信技術という意味で、「IT」とほぼ同じ意味を持ちます。

国際交流員は

仕事内容が変わった

谷　国際交流員は何年の契約か。成果は出ているのか。

答　国際交流員の契約期間は2年です。国際交流員は、地域の活動全体を支援する、大月町を町外に発信するなど、あらゆる分野の活動をしてもらうことを目的としていました。

小・中学校の英語支援や公民館での英会話教室をしてきましたが、本来の目的に沿わず、1年で辞める人が3人続きました。

平成30年度からは、英語専門の外国人を雇って、小・中学校の英語指導に切り替えました。

小学校運動会・応援にも熱が入ります

農林漁業の振興策は

今年の出来は？

農業の振興策

谷　農業の後継者不足解消に向けて何か案を持っているか。

答　農業に限らず、第一次産業の伸び悩みと後継者不足は本町の大きな課題です。農業はたばこ農家の減少や新たな生産物への施策が必要ですが、現時点では確定的なものがありません。しかし、「半農半X（半分は農業、半分は自分のやりたいことに費やす）」という考え方もあり、副業を含めた生産体制を作り上げることも必要です。人材確保の点から移住者や地域おこし協力隊員との連携も必要と考えています。

総合整備計画

辺地に係る公共施設の総合整備計画として4地区（柏島、一切、大浦、樫ノ浦）の整備計画を可決しました。

一切

道路法面整備

1,010万円

樫ノ浦

ガードケーブル整備
路肩舗装・修繕

1,951万円

柏島

駐車場、総合案内所、
排水路の整備

6,980万円

大浦

ガードレール整備

1,569万円

委員会活動

平成30年度 議会報告会実施報告書

議会改革特別委員会

4月23日から6月4日までの間に10カ所で議会報告会を実施。町民の皆さんの提言・意見等を、町長に報告するだけのもの20件、回答を求めるもの6件に取りまとめたので報告します。

回答を求めるもの

▼町道の草刈り作業の後始末が悪い。草が側溝にたまり排水が悪くなる。
▼川のヨセは根ごと取り除いてほしい。
▼改善センターの裏に、舞台から退場する通路を増設してほしい。
▼大月病院の玄関前スロープの幅を広げ、手すりと雨除けを設置してほしい。
▼大駄場から農免道路に入って龍ヶ迫に抜けるルートの他に、成畑にも通学バスのルートを検討してほしい。
▼白崎から泊浦に抜ける線に、待避所を作り、支障木を伐採してほしい。

観光資源の活用 結審

産業建設常任委員会所管事務調査

▼白浜（芳ノ沢）に水道、トイレ、駐車場を早急に整備し、体験型観光の受け入れ態勢を作るべきである。
▼大洞山に、駐車場、トイレ、案内板、展望台を整備してから一般開放すべきである。
▼マグロは、仕入価格の検討や町民がすすめられるメニューの考案が必要である。
▼グルメに関しては、大月町の海産物・農産物など豊富な食材を活用し、町を訪れる人たちが楽しめる事業を目指すとともに、「見る、食べる、体験する」体験型観光を目指すべきである。
▼観光案内板の充実が必須である。

人口減少対策 結審

総務厚生常任委員会所管事務調査

▼本町の政策として主課題が提示されているが、具体的手法や目標達成の期日が明確にされていない。
▼本町の政策は、町独自の政策・施策が少なく、各担当課の連携・協働体制が確立されていない。
▼「人口減少に歯止めをかける」を目的に、若者定住（移住を含む）に向けて、結婚、出産、育児、教育、住宅整備、雇用の創出、福祉の充実に全力を注ぐべきである。特に、出産から義務教育終了までの費用負担軽減と行き届いた手当などの保護政策が必要である。
▼常に「人口」を意識した政策立案を要する。施行される政策には、本町独自の特徴があり、具体的数値目標と達成期日を明確にし、成果が検証される体制の確立が望まれる。

濁流に呑み込まれる橘浦

質　問　一　覧

谷　正美 議員
- 地域おこし協力隊
- 豪雨災害の検証
- 機構改革

野村満久 議員
- 災害時の連絡網
- 避難道

浦木秀雄 議員
- 豪雨災害対策
- くらしを豊かに

高野真司 議員
- 災害時対策

山本恒和 議員
- 西日本豪雨災害

久米里志 議員
- 防災・減災対策
- 通学路対策

9月定例会の傍聴者は
8名でした。

次回定例会は**12月**の予定です。
傍聴のお問い合わせは
議会事務局までお願いします。
（電話：0880-73-1682）

谷　正美議員

地域おこし協力隊

もっと積極的に

町民の理解の範囲で／町長

問　地域おこし協力隊制度を積極的に活用していない。本年2名が卒業し、現在3名の隊員しか活動していない。移住対策、地域の活性化としてもっと積極的に活用する考えはないか。

岡田町長　この制度を移住対策として考えることは否定しませんが、大切なのは定住・定着と考えます。協力隊募集委託事業を使い、本町に適した人材の募集を、町民の理解が得られる範囲で進めていきます。

人材は貴重な財産

豪雨災害の検証

マニュアル通りか

全てができたとは思わない／町長

問　西南豪雨の教訓を生かし、地域防災計画が作られたが、今回そのマニュアル通りの対応はできたのか。

岡田町長　計画に定める災害対応はおおむねできていましたが、全てが迅速に対応できたとは思っていません。

問　危機管理課を中心とした災害対策本部であったが、3人体制の課で対応できたのか。帳場的な対策本部を設置して情報などを網羅し、本部長である町長が想定外をつぶしていくことで早急な初期対応ができたのではないのか。

岡田町長　早い段階で被害の全容が把握しきれないところもありました。今後は初期の段階で班構成を組み、被災地区へと投入し情報収集体制の充実を図っていきます。帳場的な本部設置については、2つの災害の教訓を生かし、対応・検討していきます。

機構改革

どのようなビジョンか

委員会を設置し対応／町長

当時の、そして今回の災害を教訓に

問　1年半後、14課あるうちの6名の管理職が退職する。人口減少、少子高齢化の進む中、町民への支援は変わらない。町民サービスが低下しないよう機構改革が必要と、昨年6月議会で提言したが、どのようなビジョンを持って進められているか。また、若者の意見を参考にすべきと考えるが。

岡田町長　その取り組みが7月の災害で遅れています。災害対応が落ち着いたら機構改革委員会を立ち上げ、大月町の方向性と将来の姿を描きながら機構改革等に踏み込んでいきたいと考えています。

　若者の意見は課長を通じて網羅していきます。

野村　満久 議員

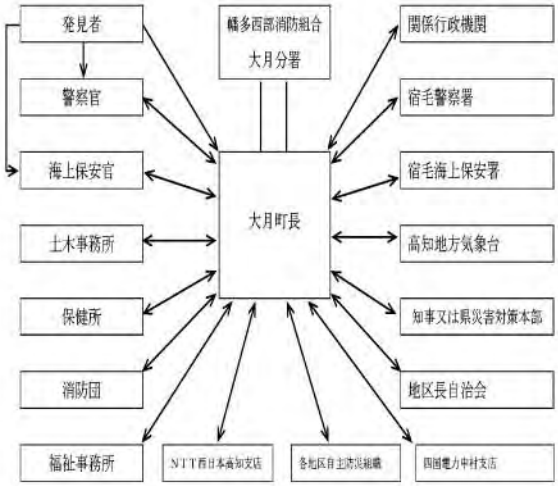
災害時の連絡網

事前の情報収集を

情報連携の強化を目指す／町長

問　近年、異常気象による災害が全国各地で起きている。大月でも7月8日の豪雨時には甚大な被害が出たが、災害時の連絡網は、今現在どうなっているのか。

岡田町長　災害発生状況の入手は、消防機関からの報告や発見者からの通報に頼るところが大きくあります。地域の水防監視については、消防団の巡視活動により対応していただいており、その状況や被害発生時の対応については、大月分署を通じて報告されています。



災害時の情報連絡網
（地域防災計画より抜粋）

問　7月の豪雨時、災害発災時や発災前の連絡網の徹底がなされていないため、情報収集の遅れが生じている。地域の情報をいち早く収集できるよう消防団や連絡網の強化を。

岡田町長　地域の情報を早く収集し早く周知するということを大きなテーマとして取り組まなければなりません。消防団や自主防災組織、また住民からの情報提供の強化をし、情報連携の在り方についても共通認識をもって取り組むよう考えています。

避難道

同時災害に備えを

見直し必要／町長

問　震災時の津波に備え避難道が整備されたが、今回の豪雨で使えなくなっている。北海道では台風直後の地震で広範囲の土砂崩れが発生した。豪雨や地震など同時に起こる災害も考え今後の避難道、避難場所の検討を。

岡田町長　地区住民と検討した上での現在の避難設備だったが、見直しも必要ではないかと考えています。

　また、避難困難者については、地域の自主防災組織との協議も必要と考えます。

土砂崩れに巻き込まれた避難路

豪雨災害対策

治水対策を

県、国に陳情／町長

浦木　秀雄 議員

問　町長は、今回の災害は「お金があまりかかりませんから」と災害救助法の適用を県に断っている。その理由は。

岡田町長　事後になりましたが、県庁に出向き、8日付けで災害救助法の適用を受けました。県とのやりとりに大変不備があったかもしれません。適用が遅れたことは、大きく反省しています。

問　災害の初期対応として、①被害の写真や動画を災害対策本部へ住民も電送し一括管理する。②対策本部では全員が被害の実態と対応の共有を図る。③災害時に町長が対策本部から動けないことを区長や住民に説明しておく。④災害が落ち着いた段階で町長は地区に出向き、住民を安心させる。⑤人工知能を使った予報、避難体制を取る。この5つの提案をしたい。

岡田町長　初動の段階では、班体制による調査体制づくり、情報収集の充実と迅速化を図ります。災害対応の業務が集中する部署への対策は全庁的な職員の配分・調整により災害対応業務の隔たりを是正し災害対応の充実を図っていきます。

5つの提案は、災害対応に向けて必要であると思っています。

問　今後の治水対策として川幅を広げる、石・泥・蘆の除去、砂防ダムの砂の除去、水位計の設置、国・県への補助金要請などが考えられるが、どのように取り組もうとしているのか。

岡田町長　被災した市町村から陳情しないと対応できないので、これから県、国に陳情していきたいと考えています。

大岩で塞がった県道（柏島）

くらしを豊かに

社会教育の充実を

現状維持に努める／教育長

古くなった公民館

問　専任の公民館長を置く。文化講演会を開く。公民館を新しく建て替えることについてどう考えるか。

濵﨑教育長　専任の公民館長は今のところ置く考えは持っていません。講演会は参加人数が減ってきたので、平成19年度から取りやめています。今後やるかどうかはみなさんの意見を聞きながら考えていきます。現時点では、公民館、図書館を建て替える計画はありません。

高野　真司 議員

災害時対策

孤立対策は

中村・宿毛道路の早期完成／町長

問　国道321号線は、大災害時に通行不能になることが想定されている。橋を含めた崩落箇所の想定は。

山下建設環境課長　国道321号線の橋梁は町内に12橋、宿毛市内に12橋あり、橋脚の補強、崩落対策を平成30年度に完了すると報告を受けています。

問　大災害時に大月が孤立することが想定されているが、食料など生活必需品確保計画は。

冨岡危機管理課長　想定避難者数2500人の1週間分の食料および飲料水を平成31年度までに確保し、毛布や衛生用品など生活必需品確保を計画的に進めています。

問　町外の人が大月町で帰宅困難となった場合の対応は。また、町外の人には避難路や一時避難所は分かりにくい。道の駅・大月に災害時の物知りコーナーを設置し、観光パンフレットなどと一緒にハザードマップ等も利用できるようにしてはどうか。

　また、大月町民が町外で帰宅困難になった場合の対応は。

冨岡危機管理課長　帰宅困難者の一時的な受け入れ施設として、道の駅を想定しています。大月町民が町外で帰宅困難となった場合には、滞在する市町村での対応となります。

岡田町長　町外の方はどこに避難していいのか分からないので、道の駅・大月で情報発信をしておかなければならないと考えています。

情報発信の拠点として

問　中村・宿毛道路の早期完成を目指して、大月あしたをつくる会・地区長自治会を中心に大月町民一丸となって決起集会を行ってはどうか。

岡田町長　知事は中村・宿毛道路を「命の道路」「産業道路」として、優先的に予算を付けてくれています。1年半から2年で三原の下切トンネルまで来る予定です。宿毛・大月・三原・土佐清水一丸となって大震災に間に合うように予算獲得に取り組んでいます。早期完成を目指しての決起集会は、大月町だけでなく4市町村が集まり開催する方が効果があると思います。

中村・宿毛道路の早期完成を

山本　恒和 議員

西日本豪雨災害

災害対応と今後は

県の回答後、地区へ報告／町長

問　災害発生時には災害対策本部が設置され指示を行うことになるが、その組織構成と機能は。

岡田町長　災害対策本部は大月町地域防災計画の定めにより設置する組織です。町内地域に関わる災害の予防、応急対策および復興にあたります。組織は、行政組織を主体に9部局を13班に編成し、町長が本部長として災害対策本部の事務を総括します。

ボランティアの皆さん
猛暑の中ありがとうございました

問　救援物資の輸送担当関係と、町内と町外の情報交換機能は。

冨岡危機管理課長　救援物資は厚生部の担当で、町民福祉課が主体となります。町外への支援要請および情報全体のとりまとめは事務局の危機管理課が担当します。また、業務分担に応じた情報収集をそれぞれの部・班が行います。

水の配給に長蛇の列

問　災害時における地区からの正確な情報提供を習慣付けることは、危機管理上、重要であり町民を救う大きな要素になるのではないか。

岡田町長　自主防災の観点から、地域の意識改革は大切なことだと考えます。地区、女性防火クラブ等と連携して、今後の取り組みを進めます。

問　このたびの大月町における被害や災害対応について検証されたか。

岡田町長　本町には高知大学の地盤災害調査チームが、被害の大きかった地区の土砂流出に係る発生要因の分析調査をしました。詳細な調査結果と助言を頂き、今後の防災対策に生かしていきます。

問　橘浦地区では、このたびの豪雨で三度目の水害に遭った。地区では以前から砂防ダムに関する要望があったと聞いているが、今後どのように考えるか。

岡田町長　地区から砂防ダムの建設や治山の道路等の早期対応についての要望が出ています。その要望に関して、今、県と協議しております。県の報告を頂きましたら、地区等へはその回答を持って早急に説明に行きます。

久米　里志 議員

防災・減災対策

どのように進めるのか

切れ目のないよう対応する／町長

問　7月8日の豪雨災害では、大月町の弱点・課題も多く見つかった。この経験を生かし、防災・減災としての環境整備が重要だ。今後の町長の考えは。

岡田町長　町河川は毎年町単独事業で堆積土砂の撤去を行っていますし、砂防堰堤も堆積土砂の取り除き工事を補正予算で要望しています。河川改修事業は護岸の嵩上げ工事を実施し、水位計も新たに3基設置を予定しています。

　防災・減災も含め、国・県に対して積極的に要望し、重要項目の1つとして切れ目のないよう対応します。

問　「避難準備」「避難勧告」「避難指示」等の情報の意味が、十分に理解されているか。また、避難情報が個人に伝わっているか、確認を万全に。

岡田町長　各情報の意味について、住民に浸透していないのが実情ではないかと思います。広報での周知や、地区で開催される防災訓練の機会等で理解を深めていきます。災害時の地域での支え合いは今後ますます重要で、取り組みが発展するよう働きかけます。

問　高齢者や障がい者・弱者の災害時の避難は、共助で守ることが大切である。各自治会の強化、人のつながりを今後どのようにしていくか。

岡田町長　過疎化・高齢化により、多くの地区で支える側の人材が不足し、弱者を支える仕組みづくりそのものが進まない状況にあります。しかし、地域の共助は必要不可欠です。町においても、側面からさまざまな分野で人材育成事業を展開し、核となるリーダーを増やしていきます。

荷物がたくさん詰まったカバンで登校

通学路対策

通学路は認定できないか

主要道路を通学路に認定／教育長

問　通学路の危険箇所対策は何一つ改善されていない。現場は確認したか。また、通学路認定はできないのか。

濵﨑教育長　現場を確認し、草刈りや街灯等の交換は行ってきました。通学路認定については、主要道路を通学路認定し、整備を進めていきます。

問　教科書が詰まった重いカバンや、多くの荷物で通学する生徒たちが姿勢を悪くしている。国もこのことに気付き、「置き勉」を認める方針を固めた。教育長の考えは。

濵﨑教育長　大月町の方針としては、家庭学習に必要でない教科書等は学校に置くことを認めています。

みんなの広場 私もひとこと

グラウンド・ゴルフのすすめ

新谷 尚文（なおふみ） さん（姫ノ井）

グラウンド・ゴルフの練習日（週2回）には、絶えない笑顔で26名の仲間とボールを追いかけています。

平成19年に地区長・老人クラブ会長の連名で春季と秋季の地区大会を立ち上げ現在に至るまで、一度も欠かすことなくこの大会は継続しています。当初は、姫ノ井の会員のみでしたが、徐々に弘見・樫ノ浦・泊浦・芳ノ沢と仲間が増え、話題は尽きません。年に数回は町外での大会にも参加し、他のクラブのメンバーとの交流も生まれています。

グラウンド・ゴルフはだれでも気軽に楽しめるスポーツ。特に、高齢者の皆さん、シワも腰も伸びますよ。やってみませんか。お待ちしています。

未来のそうぞう

間﨑（まさき） 真由子 さん（一切）

大月に溢れる魅力を大月小学校5年生とアニメーション「大月の宝物」「Project（プロジェクト）-O（オー）大月の海」としてつづり、YouTube（ユーチューブ）に投稿しました。大月の未来あるこどもたちの視野が広がるよう、デンマークの教育機関と創作活動による国際交流を続けています。

来年はデッサン講座など計画中です。人を招くので町内周遊バスがあれば良いなと思います。

大月でさまざまな人と未来を想像し、創造する力を育みながら、お世話になっている方の「未来のそうぞう」と「ありがとう」を伝えたいと思います。

こんにちは 心温まる 災害支援

橘浦出身　中野　公夫（きみお）さん（宿毛市在住）

7月8日の豪雨災害で困っている橘浦住民のために、大量の物資を届けてくれた中野公夫さんを訪ねました。

はじめは親類のために

中野さんは現在宿毛市に住んでいます。

8日の4時過ぎ、豪雨で橘浦の実家が心配になり、親類に食料を届けようと、車で小筑紫の八ちゃん堂まで来ました。道は川のようになっていましたが、そのまま突っ込んだそうです。車はすぐに動かなくなり、死にかけそうになりながら車を捨てて逃げました。

歩いて大月に行き、橘浦から泊浦まで船で親類に来てもらって、なんとか食料を届けました。

救援物資を届けてくれてありがとう

役に立ちたい

「橘浦が豪雨や土石流で大変」、「物資がなくて困っている」。親類から話を聞いた中野さんは、八ちゃん堂の前で死にかけた時、「これからいいことするがに、このまま死なれん」と、叫んだことをふと思い出し、橘浦住民に物資を届けようと決意するのです。

大量の水・食料を

宿毛に帰った中野さんは、朝7時半、救援物資を求めて量販店を訪ね歩きました。そして、やっと、ペットボトル、カップラーメン、缶詰など、軽トラック2台分の水や食料を手に入れ、橘浦に届けました。

友情の輪が

中野さんの行動を知り、中野さんと付き合いのある方が次々と動きます。

四万十市の久保田光信さんは、3トントラック2台分の水、食料を自分の車で泊浦まで運び、そこからは船で橘浦に届けてくれました。

また、宿毛市の田中ひさしさんは、10数トンの水を宿毛新港から橘浦へ届けてくれました。

橘浦住民の声

「公夫があんなことをしてくれる子だとは思わなかった」、「ありがたかったなあ」、「公夫には助けられた」。

感謝の声がたくさん寄せられました。

編集後記

地震、台風、集中豪雨、毎年のように各地でさまざまな被害が発生している。

本町でも7月8日の豪雨では甚大な被害が発生した。まさかこんなことになるとはといった油断が、誰しもの頭の中にあったのではないか。

いろいろな方法で危険を回避してはいるものの、全ての危険を排除することは不可能に近いであろう。だからこそ、おのおのが今一度日々の危機管理を見直す必要があるのでは。

（野村満久）

発行／高知県大月町議会
編集／議会広報常任委員会

高知県幡多郡大月町弘見2230
TEL(0880)73-1682

印刷　有限会社　宿毛印刷

議会広報常任委員会

委員長　山本　恒和
副委員長　安原　明彦
委員　浦木　秀雄
委員　野村　満久
委員　久米　里志